



ムラサキツクサ

基本、根底、出発点が **主を畏れる** こととされています。ですから、この112編も箴言のように、知恵文学の一つと見なされるでしょう。

いかに幸いなことか／主を畏れる人／主の戒めを深く愛する人は。(1) は、**主を畏れる人** は **主の戒めを深く愛する人** であり、その人は祝福されると解説しています。戒め、掟、律法は、義務・責任・法であり、禁止条項が多く、戒めを守れず、破りがちで、束縛、強制、罰を受けるものと考えてしまいます。けれども、112編では **深く愛する** と言っています。戒めを深く愛することはできるでしょうか。

イエスは言われた。『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。(マタイ 22:37) と、あるように戒めは「神と人を愛する」という積極的なものとして私たちは教えられています。112編を詠んだ詩人は主イエスのこの思いを知っていたかのようです。**主の戒めを深く愛する** という言葉はここだけです。

**主を畏れる人** への祝福は以下のように列挙されています。

1.子孫繁栄する	彼の子孫はこの地で勇士となり／祝福されたまっすぐな人々の世代となる。(2)
2.富と繁栄	彼の家には多くの富があり／彼の善い業は永遠に堪える。(3)
3.希望	まっすぐな人には闇の中にも光が昇る(4)
4.共生する	憐れみ深く、貸し与える人は良い人(5) 貧しい人々にはふるまい与え(9)
5.保証を得る	裁きるとき、彼の言葉は支えられる。(5) 彼は悪評を立てられても恐れぬ。(7)
6.安定する	主に従う人はとこしえに揺らぐことがない。(6) その心は、固く主に信頼している。(7)
7.歴史に残る	彼はとこしえに記憶される。(6)
8.完全な勝利	ついに彼は敵を支配する。(8) 彼の角は高く上げられて、栄光に輝く。(9)

**主を畏れる人** は **まっすぐな** と形容されています。正直でごまかしがないという意味です。嘘、偽りがある人、神に逆らう者はそれを見て憤り／歯ぎしりし、力を失う。神に逆らう者の野望は滅びる。(10) と、戒められています。

『讚美歌 21』には関連讚美歌がありません。ジュネーブ詩編歌はソプラノのピオラ・ダ・ガンバとルネサンス・ギターによる演奏です。

<https://www.youtube.com/watch?v=l76rx8UEdu8&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=112>